

【共通】

I 次の文章を読み、以下の問い（問1～問6）に答えなさい。

17世紀になるとヨーロッパの奴隷商人は、西アフリカで綿織物や ア と引き換えに黒人奴隷を買い、アメリカ大陸へ輸送すると、アメリカ大陸からは砂糖・コーヒー・たばこ・毛皮などとともに イ をヨーロッパへと運んだ。こうしてヨーロッパへと運ばれた イ は、ア アジアにおける日本や中国との交易で用いられた。

17世紀に成立した江戸幕府は、キリスト教への警戒から徐々に他国との交易を制限し、ロ 長崎・対馬・薩摩・松前の4か所でのみ海外との交易を認めた。18世紀には農地の集約化や問屋制家内工業によって商品作物や工業製品の生産が可能となり、ロ 各地に生まれた特産品が江戸や大坂に運ばれた。

江戸幕府の成立と同じ頃に中国東北部に成立した清は、17世紀後半には明が滅んだ後に中国王朝としての地位を確立した。清は明から ロ 伝統的な冊封関係を引き継いだだけでなく、18世紀頃に形成された海上交易ネットワークを利用し、アジアやヨーロッパ諸国との交易を活発に行い、東・東南アジアで清を中心とする国際秩序を形作った。

江戸幕府や清の成立と同じ頃、地中海沿岸ではイスタンブールを首都とする ウ が地中海の大半、黒海、紅海、ベルシヤ湾を支配下に置きヨーロッパとアジアを結ぶ貿易ルートを押さえていた。特にヨーロッパからインド洋へかけては、サファヴィー朝や エ とともに商業ルートを整備し、交易を通じて繁栄していた。

問1 空欄 ア と イ に入る言葉の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a ア 火器 イ 金
- b ア 火器 イ 銀
- c ア 陶磁器 イ 金
- d ア 陶磁器 イ 銀

問2 下線部Aに関する説明として、もっとも適切なものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 17世紀には世界の銀のおよそ3分の1を日本が産出していたといわれ、その多くは中国へ輸出されていた。
- b 16世紀に他の国に先んじてオランダがインド洋交易に参入したが、その後ポルトガルの東インド会社は武力で駆逐された。
- c イギリスは東インド会社を設立し東南アジア貿易に進出したが、オランダと争って敗れたため、進出先を中国に変更した。
- d 明から清の時代には、陶磁器などの手工業品が特産品として輸出され、対価として金が支払われたため清では金を中心とした経済が発達した。

問3 下線部Bに関する説明として、もっとも適切なものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 長崎ではオランダと中国にのみ交易が許され、オランダに対しては商館を出島に移し日本人との接触を管理することを条件にキリスト教の布教を認めた。
- b 対馬に設けられた倭館には幕府の人間が派遣され、朝鮮通信使との交流など朝鮮との外交・交易を幕府が直接管理した。
- c 薩摩藩によって監督下におかれた琉球王国は中国との朝貢貿易を続けたため、江戸幕府は薩摩を通じて琉球王国と交易をするだけでなく、中国や他国との交易も間接的に行った。
- d 江戸幕府は松前藩を通じて蝦夷地のアイヌとの交易を行っていたが、やがてアイヌの統一国家が出現すると対等な外交関係を結ぶこととなった。

問4 下線部Cに関する説明として、もっとも適切なものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 中国で高級食材として消費されていたふかひれの主要な産地は日本であり、干してから俵に詰めて輸出されたため「俵物」とよばれた。
- b 大坂は全国の商品作物の換金場所や、江戸への供給源としての役割を果たしており、物資の受け入れは主に参勤交代によって整備された陸路によって行われた。
- c 蝦夷地で採取された昆布は、西廻り航路で大坂、その後長崎へ運ばれヨーロッパへ輸出された。こうした海路は近年では「昆布ロード」とも呼ばれている。
- d もともと肥料として活用されていたいわしは、新しい調理法が見つかったため食料としての需要が増し、肥料として使われることが少なくなった。

問5 下線部 D に関する説明として、もっとも適切なものを下の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a 18 世紀半ばにはヨーロッパ船の来航を広州に限定したが、ヨーロッパで東アジア製品が流行していたために貿易額は増加した。
- b アジア諸国との貿易では、清は綿花や砂糖などの特産品を輸出し、東南アジアからは米を、インドからは生糸や綿織物などを輸入した。
- c 清は海上武装勢力である台湾の鄭氏とは友好的な関係を築き、海上ネットワークの治安を維持するための武力として利用した。
- d 清の経済発展は働き手に対する需要を生み出したため、海上交易ネットワークを通じて東南アジア各地から清へ移住する人々が増え、清国内に独自の居住区が作られた。

問6 空欄 ウ と エ に入る言葉の組合せとして正しいものを下の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a ウ ビザンツ帝国 エ デリー＝スルタン朝
- b ウ ビザンツ帝国 エ ムガル帝国
- c ウ オスマン帝国 エ デリー＝スルタン朝
- d ウ オスマン帝国 エ ムガル帝国

【共通】

Ⅱ 次の文章を読み、以下の問い（問7～問12）に答えなさい。

19 世紀末から 20 世紀はじめの西ヨーロッパでは、農民・労働者など職業的な枠を超えた新しい集団が国民の多くを占める大衆社会が成立した。人々の政治参加も各国で活発になっていった。また、大量に生産される新商品が、百貨店などによって労働者や農村の人々をも含む消費者に届けられ、大量消費の時代が始まった。g それはまた、大衆文化の始まりでもあった。特に、c 第一次世界大戦中のアメリカは、経済や文化の面で繁栄の時代を迎えた。先進国での大衆社会の成立には、d マスメディアの発達も大きな役割を果たした。

世界で広がっていた大衆の政治参加の動きは、日本でも始まっていた。1925 年に X を首相とした内閣は、満 25 歳以上の男性に選挙権を与える男子普通選挙を実現させた。憲政会と立憲政友会が交互に政権を担当する時代が続いた。第 1 党の党首が内閣を組織する慣例は、Y とよばれ、主要新聞や知識人から支持された。また、マスメディアの発達は欧米諸国と同様に、e 日本でも都市部の大衆の生活を支えていた。

問7 下線部 A に関連する内容を説明したものとして、もっとも適切なものを下の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a 20 世紀となると、フランスで財産による制限選挙から男子普通選挙への移行がようやく始まった。
- b 20 世紀初頭に、アメリカでは黒人を含む成人男子の選挙権が認められるようになった。
- c 経済不振が続いたイギリスでは、国民が総力戦を担ったことから、1918 年に成年男性と共に女性にも選挙権が拡大した。
- d イギリス自治領のカナダやインドなどは、イギリス本国と同等の権利が認められ、イギリス連邦の州となった。

問8 下線部 B に関連する内容を説明したものとして、誤っているものを下の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a 度重なる社会運動の結果として、労働者の労働時間が短縮し、余暇時間がのびた。
- b 海水浴場や遊園地、旅行会社などのレジャー産業が発展した。
- c 安価な新聞・雑誌や大衆小説が登場し、近代スポーツが発達した。
- d 1920 年代にテレビ放送が始まり、モノクロテレビが家庭にも普及し始めた。

問12 下線部Eに関連する内容を説明したものとして、誤っているものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 東京では、世田谷など郊外にも映画館が立ち並び繁華街が形成された。
- b 低廉な円本や文庫本が発刊された。
- c ラジオ放送が開始された。
- d 新聞のなかには部数が100万部を超えるものが現れた。

問9 下線部Cに関連して、次の文A・イについて、その正誤の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- A アメリカは、第一次世界大戦中とその後に、イギリスやドイツなどに多くの資金を貸した。こうして、国際金融の中心は、イギリスのロンドンからアメリカのロサンゼルスに移った。
- イ アメリカ国内では、所得格差や労働条件の改善が行われ、白人のホワイトカラー層のみならず、黒人やアジア系などの移民を含め、購買力のある人々が増大した。

- a ア 正 イ 正
- b ア 正 イ 誤
- c ア 誤 イ 正
- d ア 誤 イ 誤

問10 下線部Dに関連する内容を説明したものとして、もっとも適切なものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a マスメディアの発達により、不特定多数の人が同時に情報を得られるようになり、情報を握る少数の人々による大衆操作の危険がしだいになくなっていった。
- b 新聞や雑誌は、初等教育の普及と識字率の向上により、少しずつ読まれるようになったが、庶民の手には届かないものであった。
- c この時期のマスメディアは、大衆に娯楽を提供する媒体として機能したものの、商品を宣伝する広告の場にはならなかった。
- d 巨大な情報に覆われる大衆社会は、大都市のなかで生活し、従来の共同体的結びつきを失った人々がアイデンティティを喪失する危険性ははらんでいる。

問11 空欄□と□に入る言葉の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|---|-------|
| a | X | 原敬 | Y | 民本主義 |
| b | X | 加藤高明 | Y | 憲政の常道 |
| c | X | 原敬 | Y | 憲政の常道 |
| d | X | 加藤高明 | Y | 民本主義 |

問15 下線部Bに関連する説明として、誤っているものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 海上封鎖などの強制措置が宣言され、世界は全面核戦争の緊張に包まれた。
- b アメリカはキューバに対する地上戦を展開し、ミサイル基地を破壊した。
- c ソ連の共産党第一書記と米国の大統領との間で、書簡を通して意思疎通がはかられた。
- d アメリカの政府高官による会議では、武力攻撃派と海上封鎖派に分かれて激しい議論が行われた。

問16 下線部Cに関する説明として、誤っているものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 核軍縮の最初の一步であったが、核兵器の保有有無の差が生じ、不満も表れた。
- b NPTが結ばれてからも、核兵器の製造や宇宙開発競争は続いた。
- c 60年代末から70年代の米ソ間の緊張緩和は「デタント」とよばれた。
- d 条約は結ばれたものの、核軍縮交渉は実現せず、軍備縮小はできなかった。

問17 下線部Dに関する説明として、誤っているものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a フランスでは、大統領ド＝ゴールが核武装やNATO軍からの離脱を進めた。
- b 西ドイツではブランド政権が東側諸国との関係改善に努めた。
- c 西ドイツはソ連との間で武力不行使を定めたモスクワ条約を結んだ。
- d 東西ドイツの関係は改善されることなく、緊張関係の緩和は見られなかった。

問18 下線部Eに関連して、冷戦下の日本の出来事を古いものから年代順に正しく配列したものを、下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|----------|----|------|-----|--------------|
| I | 日ソ共同宣言 | II | 国連加盟 | III | 日米新安全保障条約の締結 |
| a | II—I—III | | | | |
| b | I—II—III | | | | |
| c | II—III—I | | | | |
| d | I—III—II | | | | |

問19 下線部Fに関連する説明として、もっとも適切なものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 産業構造の変化や農村から都市への大規模な人口移動は見られなかった。
- b 1968年には国民総生産（GNP）がアメリカを抜いて世界1位となった。
- c 重化学工業は、日本独自の技術力によって発展した。
- d 個人の所得が向上したことで大衆消費社会が進み、国民の間に中流意識が定着した。

【選択問題：Ⅱ～Ⅴのうち大問をひとつ選びなさい】

Ⅲ 次の文章を読み、以下の問い（問13～問23）に答えなさい。

1953年ソ連では、独裁体制を築き米英との対立を進めたスターリンが死去した。東西の緊張緩和を求める国際社会の声が高まるなかで、米・英・仏・ソの首脳が戦後初めて集うジュネーヴ4巨頭会議が開かれ、平和共存の模索が始まった。ソ連でも、共産党第一書記のXが1956年の第20回ソ連共産党大会で資本主義諸国との平和共存を主張した。彼はアメリカを公式訪問してY大統領の歓迎を受け、「雪どけ」を印象づけたが、ソ連によるアメリカ空軍スパイ偵察機撃墜事件によって関係は再び冷え込んだ。戦後、ソ連による政治的な介入を受けていた東欧諸国は、スターリン批判によるソ連の変化を察して改革運動を起こした。

キューバでは、カストロを首相とする革命政権が樹立され、社会主義化が進められた。1962年、ソ連がキューバにミサイル基地を建設していたことが分かると、アメリカのケネディ大統領はこれを脅威とし、米ソ間の緊張は核戦争寸前まで高まった。Bキューバ危機によって意思疎通の重要性を学んだアメリカとソ連は、首脳同士の間に直通電話（ホットライン）を引くなど平和共存の意志を確認し、その後の核軍縮への道を開いた。1963年に部分的核実験禁止条約（PTBT）、1968年にはC核拡散防止条約（NPT）が結ばれた。米ソの間で緊張と緩和が繰り返されることで、D西欧諸国も独自外交を進めるようになった。

E冷戦が激化するなかで、日本国内でも保守勢力と革新勢力の対立が高まった。他方、1950年代半ばから始まるF高度経済成長を推し進めたのは、大企業の積極的な設備投資であった。G戦後日本のアジアとの関わりは経済面から始まり、H東アジア諸国との関係も進展した。

問13 空欄XとYに入る名前前の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- | | | | | |
|---|---|--------|---|----------|
| a | X | ゴルバチョフ | Y | ケネディ |
| b | X | フルシチョフ | Y | アイゼンハウアー |
| c | X | ゴルバチョフ | Y | ワシントン |
| d | X | フルシチョフ | Y | ブッシュ |

問14 下線部Aに関連する次の文A・Iについて、その正誤の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- A ハンガリーでの自由化を求めるデモを抑え込むために、ソ連は軍事介入を行った。
- I チェコスロヴァキアでは「ブラハの春」とよばれる自由化路線が進められた。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| a | A | 正 | I | 正 |
| b | A | 正 | I | 誤 |
| c | A | 誤 | I | 正 |
| d | A | 誤 | I | 誤 |

問20 下線部Fに関連する日本の出来事を古いものから年代順に正しく配列したものを、下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- I 公営対策基本法の制定 II 経済協力開発機構（OECD）加盟 III GATT 加入
- a Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ
- b Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ
- c Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ
- d Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ

問21 下線部Gに関連する関連する次のア・イについて、その正誤の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- A 1950年代、日本は東南アジア各国との間でサンフランシスコ平和条約に定められた賠償協定を締結し、賠償は労務や物品の供与によって行われた。
- I サンフランシスコ平和条約による賠償事業は、後に政府開発援助（ODA）につながった。

- a A 正 I 正
- b A 正 I 誤
- c A 誤 I 正
- d A 誤 I 誤

問22 下線部Hに関する説明として、もっとも適切なものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 日中関係は、国交がなかったため民間貿易・交流の進展が見られなかった。
- b 韓国との国交交渉は、賠償ではなく、経済協力方式で進んだ。
- c 日本と北朝鮮との間で国交交渉が進み、国交は正常化した。
- d 日韓基本条約が締結され、韓国では経済発展とともに民主化が進んだ。

問23 第二次世界大戦後、世界で問題視された南北問題について、以下のキーワードを用いて、150文字以内で説明しなさい。

植民地時代、発展途上国、先進工業国、産業のモノカルチャー化

【選択問題：Ⅲ～Ⅴのうち大問をひとつ選びなさい】

Ⅳ 次の文章を読み、以下の問い（問13～問23）に答えなさい。

明治新政府は1869年、各藩に版籍奉還を命令し、藩主と藩財政の分離を試みたが、徴税権は依然各藩に属していたため新政府の財政は限られていた。そこで藩制度を全廃するために1871年にA 廃藩置県を行い、全ての藩を廃止して府県とした。同時に、中央政府の組織の整備も進め、新政府内では少数の公家とともに、B 薩摩・長州・土佐・肥前出身者が各省の卿・大輔などとなって実権を握り、藩閥政府と呼ばれる政権の基礎ができた。並行して、封建的身分制度の撤廃も進められ、C 四民平等の原則により、大名や公家を華族、武士を士族、百姓・町人を平民とする身分制の改革が行われた。

廃藩置県を終えて国内を統一した政府は、D 多くの政府首脳を含む使節団を米欧諸国に派遣するなど、外交問題に取り組んだ。その間、西郷隆盛を中心とする留守政府は、1873年までにE 地租改正などの内政改革を実施した。その結果、近代的な租税形式が整い、政府財政の基礎が固まった。富国強兵を目指していた政府は、F 殖産興業に力を注いだ。新しい貨幣制度のために、1871年にはG 新貨条例が定められた。

外交面では、H 留守政府首脳は鎖国を続ける朝鮮に開国を求めていた。朝鮮に対する政府内の意見の違いが対立を生んだため、一部の人々は政府から下野することとなった。下野した人々は政府への不満はやがて持つ士族に支えられており、これを背景に政府批判の運動を開始した。このような政府への不満はやがてI 士族による反乱や、議会の設置を求めるJ 自由民権運動につながっていくこととなる。自由民権運動の高まりに対して、政府内ではイギリス流の議院内閣制の導入を求める意見と君主制の強い立憲君主制の樹立を求める意見の対立があったが、前者は政府を追われることとなった。政府はK 欽定憲法を制定する基本方針を決定し、国会開設の勅諭を出した。

問13 下線部Aに関する説明として、もっとも適切なものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 廃藩置県を行うために、政府は薩摩・土佐・肥前の3藩から御親兵をつのって軍事力を固めた。
- b すべての藩を廃止して3府302県としたが、1年後に1使(開拓使)を追加して1使3府302県となった。
- c 旧大名は知藩事として藩政に当たっていたが、廃藩後は政府から府知事や県令に任命され地方行政を担うこととなった。
- d 廃藩置県後の官制改革では、太政官を正院・左院・右院の三院制とし、正院の下に各省をおく制度へと改めた。

問14 下線部Bに関連して、藩とその出身者の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

	薩摩	長州	土佐	肥前
a	西郷隆盛	井上 馨	副島種臣	大隈重信
b	大久保利通	江藤新平	副島種臣	伊藤博文
c	西郷隆盛	江藤新平	板垣退助	伊藤博文
d	大久保利通	井上 馨	板垣退助	大隈重信

問15 下線部 C に関する説明として、もっとも適切なものを下の a ～ d のうちから一つ選びなさい。

- a 平民は苗字が許され、華族・士族との結婚や職業選択の自由が認められた。
- b えた、非人と呼ばれてきた人々は、四民平等にもかわらわず平民としては認められなかった。
- c 1872 年には、華族・士族・平民という新たな区分に基づいて庚午年籍という新しい戸籍が作成された。
- d 1876 年には廃刀令が出されたが、士族の特権としての家禄と賞典禄を合わせた秩禄は残った。

問16 下線部 D に関する説明として、もっとも適切なものを下の a ～ d のうちから一つ選びなさい。

- a 1871 年、岩倉具視を大使とする使節団をアメリカ・ヨーロッパへ送ったが、不平等条約の改定はかなわなかった。
- b 1876 年から寺島宗則がアメリカ、イギリス、ドイツとの外交交渉を行い、関税自主権の回復に成功した。
- c 1871 年に清に使節を派遣して日清修好条規を締結するための交渉を行ったが、清の反対によって批准されなかった。
- d 琉球王国は江戸時代以来、事実上薩摩藩に支配されていたが、清を宗主国とすることで薩摩藩の影響から逃れ、独自外交を行うようになった。

問17 下線部 E に関連して、次の文ア・イについて、その正誤の組合せとして正しいものを下の a ～ d のうちから一つ選びなさい。

- ア 1871 年に田畑勝手作りを許可し、翌年には田畑永代売買禁止令を解くなど、土地の私有化を認める方向への改革が行われたが、土地の所有権を証明する方法がなかったため混乱が続いた。
- イ 1873 年に地租改正条例を公布し、課税基準を取穂高ではなく地価とすること、物納を金納にすることなどが定められた。

- a ア 正 イ 正
- b ア 正 イ 誤
- c ア 誤 イ 正
- d ア 誤 イ 誤

問18 下線部 F に関する説明として、もっとも適切なものを下の a ～ d のうちから一つ選びなさい。

- a 関所や宿駅・助郷制度、株仲間などの封建的諸制度の撤廃を行い、自由な経済活動の前提を整えようとしたが、土地の所有権を最後まで確立することができなかった。
- b 1870 年に設置された工部省は、旧幕府や旧藩が経営していた鉱山、造船所、炭鉱などを接収すると、民営化を進めるために近代化を行った後で、速やかに財閥に払い下げた。
- c 1871 年に前島密の建議により、官営の郵便制度が発足し、全国均一料金制で運営した。
- d 貿易赤字を解消しようと、当時輸入に頼っていた生糸の国内生産を進めるために、1872 年に官営模範工場として富岡製糸場を設けた。

問19 下線部 G に関連して、以下の文章の空欄 X と Y に入る言葉の組合せとして正しいものを下の a ～ d のうちから一つ選びなさい。

新貨条例は X を建前とし、円・銭・厘の Y による貨幣制度を整えた。

- a X 金本位制 Y 十進法
- b X 金本位制 Y 十二進法
- c X 銀本位制 Y 十進法
- d X 銀本位制 Y 十二進法

問20 下線部 H に関連して、起こった出来事を古いものから年代順に正しく配列したものを、下の a ～ d のうちから一つ選びなさい。

- I 西郷隆盛を朝鮮に派遣して開国を迫り、武力行使も辞さないことを決定した。
- II 朝鮮の江華島付近で、日本の艦船が朝鮮側を挑発し、戦闘に発展した。
- III 岩倉使節団に参加していた大久保利通らが帰国すると、朝鮮開国よりも内治の整備が優先であると主張した。

- a I → II → III
- b I → III → II
- c III → I → II
- d III → II → I

問21 下線部 I に関する説明として、もっとも適切なものを下の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a 1876 年には、米価が上昇したことによって、地租が上昇することに反発した農民が大規模な一揆を起したが、三重県を中心とし、それ以外の地域には広がらなかった。
- b 1874 年、江藤新平は佐賀の不平士族に迎えられて政府に対して反乱を起こした。
- c 1876 年に、廃刀令が出されるなど士族の特権が失われるようになると、攘夷主義を掲げる熊本的神風連が西郷隆盛とともに反乱をおこし、熊本鎮台を襲った。
- d 1877 年には、大久保利通を首領とし、私学校生らの鹿児島士族を中心にした士族反乱が発生し、九州各地の不平士族が続いたが、政府によって鎮圧された。

問22 下線部 J に関連して、起こった出来事を古いものから年代順に正しく配列したものを、下の a～d のうちから一つ選びなさい。

- I 政府が漸次立憲政体樹立の詔を出し、元老院、大審院、地方官会議などを設置した。
- II 愛国社の呼びかけによって、国会期成同盟が結成され、天皇苑の国会開設請願書を提出しようとしたが、政府はこれを受理しなかった。
- III 政府は、欽定憲法を制定する基本方針を決定し、国会開設の勅諭を出して 1890 年の国会開設を公約した。

- a I→II→III
- b I→III→II
- c II→I→III
- d II→III→I

問23 下線部 K について、日本国憲法と比較した際の大日本帝国憲法の特徴を、以下のキーワードを用いて、150 字以内で説明しなさい。

天皇大権、統帥権、天皇主権、欽定憲法

【選択問題：Ⅲ～Ⅴのうち大問をひとつ選びなさい】

Ⅴ 次の文章を読み、以下の問い（問 13～問 23）に答えなさい。

人類史は、狩猟・採集を中心にした X から、農耕・牧畜による Y に移るという重大な変革をとげた。その結果、人口は飛躍的に増え、文明誕生の基礎が築かれた。メソポタミアをはじめとする地域で灌漑農業がはじまると、食料生産が発達してより多くの人口を養うことが可能になり、多数の人間を統一的に支配する国家という仕組みが生まれた。 A こうしてナイル川、ティグリス川・ユーフラテス川、インダス川、黄河・長江などの流域に文明が誕生し、やや遅れてアメリカ大陸にも独自に文明が形成された。

B オリエントとはヨーロッパからみた「日のほとるところ、東方」を意味し、西アジアからエジプトにかけての地域を指す。 C メソポタミアには、周辺からセム語系やインド＝ヨーロッパ語系の遊牧民が豊かな富を求めて移住し、興亡を繰り返した。メソポタミア南部では、前 3500 年頃から人口が急激に増え、神殿を中心に数多くの大村落在ちた。 D 前 3000 年頃には大村落在ち都市へと発展し、前 2700 年頃までにシュメール人の都市国家が数多く形成された。その後、前 19 世紀初めにセム語系のアムル人がバビロン第 1 王朝をおこし、 E ハンムラビ王のときに全メソポタミアを支配した。

前 3000 年頃、 F エジプトではメソポタミアより早く、王（ファラオ）による統一国家がつくられた。以後、一時的に周辺民族の侵入や支配を受けながらも、国内の統一を保つ時代が長く続いた。この間に約 30 の王朝が交替したが、そのなかでも G 古王国・中王国・新王国の 3 時代に繁栄した。

東地中海沿岸のシリア・パレスチナ地方は、エジプトとメソポタミアを結ぶ通路として、また地中海への出入り口として、海陸交通の要地であった。 H フェニキア人は、シドン・ティルスなどを拠点として地中海を独占し、北アフリカのカルタゴをはじめとする多くの植民都市を建設した。一方、ギリシア本土では、前 2000 年頃に北方から移住したインド＝ヨーロッパ語系のギリシア人が、クレタやオリエントの影響を受けて前 16 世紀から I ミケーネ文明を築きはじめた。

問13 空間 X と Y に入る名前の組合せとして正しいものを下の a～d のうちから一つ選びなさい。

a	X	獲得経済	Y	生産経済
b	X	生産経済	Y	獲得経済
c	X	計画経済	Y	モノカルチャー経済
d	X	モノカルチャー経済	Y	計画経済

問14 下線部 A に関連する文明と河川の組み合わせとして正しいものを下の a～d のうちから一つ選びなさい。

a	インダス文明	—	ナイル川
b	エジプト文明	—	インダス川
c	メソポタミア文明	—	ティグリス・ユーフラテス川
d	インカ文明	—	黄河・長江

問15 下線部 **B** に関する説明として、もっとも適切なものを下の **a～d** のうちから一つ選びなさい。

- a 秋から冬にかけての雨季以外にも降雨が多く、高温多湿である。
- b 羊やラクダを飼育する遊牧生活は見られなかった。
- c 小麦・大麦・豆類・オリヅなどを栽培する農業が営まれてきた。
- d 黒陶に代表される道山文化が広がった。

問16 下線部 **C** に見られた文明に関連する次の文 **A・イ** について、その正誤の組み合わせとして正しいものを下の **a～d** のうちから一つ選びなさい。

- A シュメール人が考案した楔形文字は、その後も西アジアで広く用いられた。
- イ 六十進法や太陰暦が使用されたが、太陰太陽暦が生み出されなかった。

- a **A** 正 **イ** 正
- b **A** 正 **イ** 誤
- c **A** 誤 **イ** 正
- d **A** 誤 **イ** 誤

問17 下線部 **D** に関する説明として、誤っているものを下の **a～d** のうちから一つ選びなさい。

- a 王を中心に、神官・役人・戦士などが都市の神をまつり、実権を握った。
- b 優勢な都市国家の支配層には莫大な富が集まった。
- c 壮大な神殿・宮殿・王墓がつくれ、豪華なシュメール文化が栄えた。
- d 前 24 世紀には、インド＝ヨーロッパ語系の遊牧民によって征服された。

問18 下線部 **E** に関する説明として、誤っているものを下の **a～d** のうちから一つ選びなさい。

- a 王は首都バビロンで神の代理として政治をとりおこなった。
- b 運河の大工事によって治水・灌漑を進めた。
- c ハンムラビ法典を発布して、法にもとづく統治を行った。
- d 靈魂の不滅を信じてミイラをつくり、「死者の書」を残した。

問19 下線部 **F** に関する説明として、誤っているものを下の **a～d** のうちから一つ選びなさい。

- a エジプト人の宗教は太陽神ラーを中心とする多神教であった。
- b 象形文字の神聖文字（ヒエログリフ）がつくられた。
- c 河川の定期的な増水時期を知るために太陽暦を用いた。
- d 鉄製の武器と戦車・騎兵隊などを用いて、全オリエントを征服した。

問20 下線部 **G** に関連する説明の組み合わせとして、正しいものを下の **a～d** のうちから一つ選びなさい。

- I 中心は上エジプトのテーベに移ったが、末期にシリア方面から遊牧民のヒクソスが流入した。
- II 中部エジプトのテル＝エル＝アマルナに都を定め、従来の神々の崇拜を禁じて一つの神（アテン）だけを信仰する改革を行った。
- III メンフィスを中心に栄え、クフ王らが巨大なピラミッドを築かせた。

	古王国	中王国	新王国
a	I	—	II
b	III	—	I
c	II	—	III
d	III	—	II

問21 下線部 **H** に関連する文字の継承を古いものから年代順に正しく配列したものを、下の **a～d** のうちから一つ選びなさい。

	I	フェニキア文字	II	ラテン文字	III	ギリシア文字
a	I—II—I—III					
b	III—I—II—I					
c	I—I—III—I—II					
d	III—I—I—II					

問22 下線部 **I** に関連する説明として、もっとも適切なものを下の **a～d** のうちから一つ選びなさい。

- a ミケーネ・ティリンス・ピュロスなどに巨石でできた城砦王宮とそれを中心にした小王国を建てた。
- b 唯一の神ヤハウェへの信仰を固く守り、選民として特別な恩恵を与えられると信じていた。
- c 巨大な権力を持った王が支配したというより、官僚たちによる統治が特徴的であった。
- d ヴァルナ制と呼ばれる身分的上下観念が生まれた。

問23 中華思想について、以下のキーワードを用いて、150 文字以内で説明しなさい。

中華、夷狄（いてき）、漢字